My life is
ONLY ONE!

ペルシャ コレクション展

Persia Collection

ペルシャ絨毯とギャッベの作品 8億円分
世界の逸品 展示即売会

2023.7/8(土)・9(日)・10(月)
10:30〜19:00
(最終日は18時まで)

場所：オンリーワン与次郎店 3階 特設会場

期間中、60回まで
分割手数料 無料

ペルシャ絨毯・ギャッベの
クリーニング・修理も格安で！
会場までお持ち頂ければその場でお見積をさせて頂きます。

入場無料
&
駐車場完備

最も豊富に絨毯をご覧いただける機会です。ぜひこの3日間をお見逃しなく！

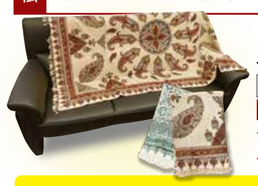
数量限定！ ご来場特典〈期間中、お一人様1枚限り〉

事前要予約

予約方法

STEP 01
事前に店頭にて
引き換えチケットをご購入下さい。

▶ **STEP 02**
期間中、ご来場の際にチケットをスタッフにご提示下さい。
商品をお渡しいたします。



ペルシャ更紗
通常価格 7,980円(税込)▼
特別価格
1,000円(税込)

ミニギャッベ
通常価格 10,000円(税込)▼
特別価格
2,000円(税込)

特別価格は事前予約された方のみ対象となります。開催期間中は通常価格での販売となります。

イベント

期間中
随時開催

ペルシャ絨毯
織り子による実演

熟練の織り子だけができる気の遠くなるような作業を間近で見られるチャンス！

ペルシャ絨毯とは？

実用品であり美術品であるペルシャ絨毯

その起源は3,000年前まで遡ると言われています。親から子へ、そして孫へ…。
代々受け継がれる魅力的な価値をもち、現代においてもなお、その美しい紋様は、和・洋どちらの住空間にも調和し、格調高く彩ります。

イラン各産地で織られている絨毯には、それぞれ独特の紋様やモチーフに込められた人々の憧れ、願い（生命の源・楽園・豊穣等）が表現されています。
色彩においても様々な意味合いを持ち現代に受け継がれ、織り上げられています。

デザイン
各地方、部族の絨毯には古くから、その地域独特の紋様・色調が代々受け継がれ今日まで伝えられています。

▶ **下絵**
方眼紙にフリーハンドでデザインの輪郭を描き、その上に色付けしていきます。織り職人はこれをもとに丹念に見事な図柄を織り上げていくのです。

▶ **染色**
描かれた図案によって使用する色糸の量が割り出され、葡萄の葉、石榴の皮、藍、茜、コチニール（貝殻虫の一種）など、天然の材料から様々な色が染め上げられます。

▶ **結び**
しっかりと張った前後2本の縦糸に、下絵（デザイン画）の一升目ごとの色糸を一つ一つ結び、絨毯の毛足（パイル）を作っていきます。

タブリーズ TABRIZ

16世紀、オスマントルコの侵攻から逃れるまで、サファビー朝初期の首都でした。タブリーズの絨毯は多くの色彩（色糸）を使いながらも全体的には落ち着いた色調が特徴です。ペルシャ語で、『小さい魚』を意味するリーズマヒデザインや、アリナサブ工房に代表される、写実的なピクチャーカーペット（絵画絨毯）にも人気があります。この辺りは絨毯の材料の羊毛の産地としても有名です。

アリナサブ工房

ナイン NAIN

以前は上質の羊毛の産地として有名でした。1920年代に有名な絨毯の産地であるイスファハンから絨毯の技術が伝わり、今では主要な産地の一つになっています。ナイン産の絨毯は縦糸に綿糸を使います。その糸の撚る数（4本・6本・9本）でパイルの細かさを表しています。ボーダーの色はベージュを基調としたものが多く、フィールドの繊細で上品なデザインを際立たせています。工房としてはハビビアンが有名です。

クム QUM

8代目イマーム、アリ・レザの妹ファティマの墓のあるマスメ寺院があり、シーア派の聖地として有名です。寺院や僧侶の多い町です。絨毯の産地としての歴史は1930年代頃、近くの産地、カシャーンの指導で始められました。コルクウールの絨毯も多く作られていますが、シルクの絨毯は圧倒的に有名で、多くの工房がイラン各産地の特徴的なデザインを取り入れ、絹独特の光沢と色彩で新たな絨毯として表現し、美しさを競い合っています。

ペルシャ絨毯の主な産地

ケルマン KERMAN

サファビー朝の時代から女性のショールの産地として有名です。絨毯は古くから織られていますが、この地の絨毯は刈り取った羊の毛を糸にする前に染める先染めの技法が用いられています。白・緑・ピンク・紺などの色彩も、ほかの産地とは趣きの違う優しい色調です。デザインは繊細さが特徴で、華やかで美しい花々で埋め尽くされた絨毯が多く、まさに砂漠の中のオアシスといった心地よさを表現しています。また絵画的な絨毯も織られていますが、写実的なタブリーズの絨毯とは違った味わいを醸し出しています。

カシャーン KASHAN

「美しいタイル（カシ）」が町の名の語源とも言われています。古くから伝統工芸の町として栄え、16世紀サファビー朝時代、絨毯の産地として数々の名品を生み出しました。19世紀後半から作られたゴルダニ・メヘラブ紋様もアンティークやオールドカーペットとして数多く残っていますが、現在はメダリオンにコーナーを持つ正統派デザインが主に作られています。ウールのカシャーン絨毯は、その美しさ・強さからイランの多くの人々に使われていますが、近年、質の高いシルク絨毯を作る工房が徐々に増えてきています。

イスファハン ISFAHAN

16世紀、サファビー朝5代目の王（シャー）、アッバスがこの地を首都に定めてから発展しました。現在でもテヘランに次ぐイラン第二の都市です。シャーアッバスはイスラムの芸術・文化に情熱を注ぎ、「イスファハンは世界の半分」と言われるほど繁栄しました。絨毯の技術もこの時期飛躍的に発展しました。王室直営の絨毯工房が次々と設けられて以来、子羊の毛を紡いだコルクウールを使い、精巧で緻密な正統派デザイン、シャーアッバスデザインの絨毯を数多く生産して来ました。1930年代から続くセイラフィアン工房は特に有名で、ペルシャ絨毯の代名詞と言える産地です。